

ブラジル日系3世の横田シンチアかおりさんが
JICA 日系社会研修員受入事業
「共感理解教育と日本文化活動」の研修を受けました

JICA(独立行政法人 国際協力機構)からの日系社会研修員受け入れ事業では、中南米地域の日系社会と日本の連携に主導的な役割を果たす方を、日本に研修員として受け入れています。世界こども財団では昨年より JICA と協働し、研修生を受け入れています。今年も1名の研修生、横田シンチアかおりさんを受け入れました。



研修は、「共感理解教育と日本文化活動」というテーマで、星槎の教育活動と日本文化体験を組み合わせた内容で、1ヶ月にわたり星槎グループ内外の協力をいただいて、近隣の教育機関を訪問したり、日本文化を体験したりと様々なプログラムを行いました。



ブラジルで英語教師をされている横田さんは、日本の教育現場、共感理解教育を知りたいという希望を持ちこのプログラムに応募されました。世界こども財団での研修は2024年1月15日にスタートし、近隣校舎の授業見学や、文化体験、星槎箱根キャンパスで行われた「インターナショナルデー」のイベントにも参加しました。1月29日からは拠点を星槎高尾キャンパスに移し、さまざまな授業を体験するだけでなく、劇団新制作座のみなさんのご協力で生け花や和装体験などを通して日本文化も学びました。

今回の研修について横田さんにインタビューをしました。

Q. 学校に関連する活動の中で、「ああ、これが共感理解教育なんだな」と感じた内容トップ3を教えてください。またその理由も教えてください。

1 生徒と先生と一緒にゲームをしていた場面

なかなか授業に参加できずにいた生徒がいたのですが、授業の中で取り入れられていたゲームをする場面で先生も一緒にゲームをして、楽しい気持ちを共有することでだんだんと興味を持ち、表情が変わりその生徒も楽しそうにゲームに参加しだしたのが見ていて、ああ良かったな、これが共感理解教育なんだなと思いました。



2 留学生や日本人生徒を対象とした英語授業での様子



日本に留学している生徒のマンツーマンの英語授業で、まだ日本の生活に完全に慣れていない生徒の気持ちがあたたかくなるような声かけ、フレンドリーな雰囲気作りを、先生がしている様子や、別の日本人生徒を対象とした英語授業で、一人一人の生徒の個性にあった対応を先生がしている様子を見た時。

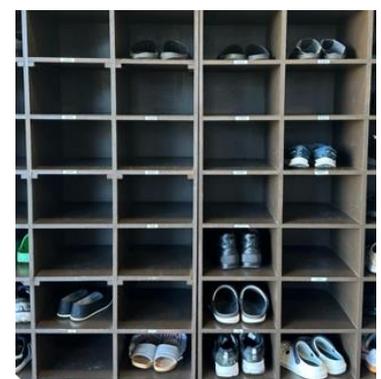
3 ハンドメイドゼミで生徒同士が声かけしている様子

手作りのものを作る授業で、生徒同士でお互いの作品を「きれいだね、かわいいね、素晴らしいね」と褒め合っている様子を見ました。好きなことをやり、お互いを認め合うことで、自信がつき、友達になれるんだな、人間はやはり一人で生きていくのではなく友達が必要なんだなと再確認しました。



Q. 今回の研修では、さまざまな日本の学校を見学していただきました。日本の教育の場で実践されている内容で、自国ブラジルの教育の課題を改善するために参考になることがありましたら教えてください。

日本の教育現場で取り入れられていることでブラジルでも取り入れたらいいなと思ったことは、室内で靴を脱ぐということと清掃についてです。ブラジルでは一般的に室内でも靴を履いたまま過ごすので室内が汚れてきます。また、学校を掃除する人が別にいるので、生徒の中に学校を綺麗にするという意識が薄いです。靴を脱ぐこと、清掃習慣で自分の落としたゴミは自分で拾うという意識も芽生えてくると思うので、これはブラジルの教育現場でも取り入れるといいと思いました。



Q. 日本文化活動の中で、印象に残った活動トップ3を教えてください。またその理由も教

えてください。

1 鎌倉

今回はじめて仏教と神道の違いがはっきりと理解できたのがとても嬉しかったです。ブラジルでも、両親が説明しようとしてくれたことはあったのですが、はっきりと説明できず曖昧でしたが、神道では寝ている神様を起こすために手をたたく。仏教ではお礼をするだけ。と知り、ブラジルの生徒にも教えてあげようと思いました。



2 和太鼓



和太鼓体験で、打鼓音の演奏を聞いた時に、心にすごく響き、涙が出てきてすごく泣いてしまいました。なぜ涙が出てきたのか理由は分からないのですが、素晴らしい日本の文化を体験することができました。ブラジルではお盆のときやお祝い事の時に太鼓の演奏には触れていたのですが、全く違うものでした。

3 生け花

花が大好きで、ブラジルでも良く花を飾りますが、ごちゃごちゃとした花になります。今回体験した生け花では、生花のさし方について、外にある自然、例えば風が吹いているような様子を生け花の形に取り入れると習い感激しました。次からブラジルで花を飾るときには、この生け花のスタイルを取り入れていこうと思います。



Q. 帰国後に、ブラジルの方に紹介したい日本文化はありますか？詳しく教えてください。

ブラジルでは、アニメや漫画、テクノロジーを通して日本の文化が今すごく人気です。また、サンパウロのリベルダーデという日本人街には、日本のものがたくさんあります。ラーメン、やきそば、お寿司なども日本と同じような味のものが食べられ、多くの人でいつも賑わっています。今回の滞在中、SNSでブラジルの方達から、いろいろな質問を受けました。「毎日寿司を食べますか？」「日本人はいつも浴衣を着ているのですか？」などの日常的な質問から、「日本に大統領はいますか？」などの政治に関することまで様々です。また、北海道の雪やスキーの映像がTVでたくさん流れるので、日本はどこも北海道のような雪景色が見られると思っているブラジル人もたくさんいます。でも日本には田舎の日本もあれば、京都の日本もあります。帰国したら、職場の同僚、生徒や北海道県人会に参加しているブラジル人、そしてSNSライブを通して多くのブラジル人に、



さまざま日本の側面を伝えていきたいと思います。



Q. 研修を終えて、横田さんの日系人としてのアイデンティティの理解はより深まりましたか？詳しく教えてください。

今回の研修に参加する前は、母国ブラジルでも日系人だなど思うことはありました。例えば、ブラジル人は日本人が大好きで、親しみを込めて「かわいい日本人」という意味で「おー、あなたはジャッパなのね、いいねー。」という会話があたりあります。そのような時には自分は日系人だなど意識していました。家庭の中でも祖母から日本についての話をたくさん聞き、日本の文化を守る大切さについて教えられていました。今回の研修で日本に滞在して自分の日系アイデンティティを再確認した場面は、靴を脱ぐことやルールを守ろうとするところでした。両親の言うことをよく聞いて、お手伝いをする、また年長者を敬うという考え方も日本のものだなど再認識した点で、自分の日系人としてのアイデンティティの理解が深まりより強いものになりました。



行く先々で暖かく迎えられ、研修は順調に進みました。ブラジルでは滅多に見られない雪を見られたことにも大変感動されていました。横田さんは「今回の研修に参加して本当に良かったです。皆さん本当にありがとうございました。お世話になりました！」と笑顔でご挨拶されました。

研修内容

導入講座

星槎学

共生社会講座

文化活動

鎌倉、東京国立博物館

和太鼓・獅子舞体験（打鼓音）

見学施設・イベント

- ・星槎国際湘南（SEC クラス、留学生日本語クラス、留学生英語クラス、アーチェリー専攻練習見学）
- ・星槎学園湘南校（みかん校舎）
- ・ティンクル瀬谷保育園
- ・星槎国際高等学校
- ・SEISA アカデミー
- ・箱根キャンパスインターナショナルデー
- ・湘南マジックウェイブ（ラジオ出演）
- ・世界こども財団活動報告会

八王子・鴨居・立川キャンパス実習

- ・プレゼンテーション：「ブラジル紹介」、「ブラジルの歴史」
- ・参加ゼミ：世界遺産ゼミ、セルフマネジメントゼミ、アニメーションゼミ、情報ゼミ、ハンドメイドゼミ、日本文化ゼミ、サイエンスゼミ、KAWAII ゼミ、イングリッシュスタンダードゼミ、ハンドメイド模型ゼミ、ST ゼミ、よのなかゼミ、手打ちうどんゼミ
- ・劇団新制作座による日本文化体験クラス：生け花、ひな祭り準備、和装体験